

第23回リハ工学カンファレンス in 新潟 報告

第23回リハ工学カンファレンス 実行委員長
(新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科)
大鍋 寿一

1. 目的

第23回リハ工学カンファレンス¹⁾²⁾をテーマ「QOL for All」(全ての人の生活の質の向上)として県・市の助成対象となる国際会議の条件を満たし、新潟ではじめて8/27-8/29朱鷺メッセで開催した。また「空飛ぶ車いす修理技術国際交流会」も同時開催した。ここではその概要を報告する。

2. カンファレンス参加者数

来場者数はスタッフを入れて480名(うち外国人17名、空飛ぶ車いすと合わせると21人、県外348人)であった。県、市から国際会議として助成金を受けるための条件(外国人10人以上、県外から1/3以上)を、両者共クリアしていた。

3. プログラムを組む上での考え方

プログラムは、現在から2025年までを視野に入れて基調講演 I、II を組んだ。徳島アグリーメントに基付き国際連携セッションを強化した。また高校生から高齢者までを視野にいれることから、高校生が主体の「空飛ぶ車いす修理技術国際交流会」の同時開催を企画した。

4. 国際連携セッション

英語での発表は24編あり、3日間毎日国際連携セッションが組めた。これは海外からの出席者にとって好評であり、活発なディスカスが出来た。

5. 基調講演

■ 基調講演 I : 重藤 和弘 氏 (内閣府 参事官(ライフサイエンス分野担当)) 「2025年までを視野に入れた先進的な在宅医療・介護の実現のための支援機器の研究開発について」 超高齢社会を迎えるにあたり、我が国が目指さなければならぬ先進的な在宅医療・介護サービスの実現のために、世界のモデルとなる2025年の日本の姿に向けての支援機器の研究開発のあり方や展望について講演して頂きました。社会還元加速プロジェクトであり、具体的には「イノベーション25」にあげているものの一つでした。

■ 基調講演 II : Dr. Jon Pearlman (University of Pittsburgh) 「QOLテクノロジーの研究開発」既に、米国ピッツバーグ大学では、QOLの向上のためにQOLテクノロジーセンターが設立され、QOLに関する評価や機器の研究開発が進んでいる。そのプロジェクトの目標・現状についての報告がなされた。ディスカッションも活発であった。

6. 特別講演

諏訪 基 氏 (国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所長) 「福祉機器・用具における人間を対象とした臨床及び研究開発・評価の必須事項」 この倫理審査は医学関係では当然のこととして行われて来たが、日本では福祉機器・

用具の研究開発では今まであまり行われてこなかった。またデータにもとづく商品説明をするのにも倫理審査を受け、取得したデータは信頼性もたれる。

7. 「空飛ぶ車いす修理技術国際交流会」の同時開催

中古の車いすを修理し、アジアの障害をもつ大人や子どもたちにプレゼントする国際ボランティア活動「空飛ぶ車いす修理技術国際交流会」を開催した。本交流会には日本、韓国の工業高校生や大学生が参加し、当日、会場で車いすの修理を行った。またタイからも「日本からの車いす寄贈活動についての報告」があった。その様子は新聞でも報道された³⁾。リハ工学カンファレンスではインドネシアでの活動報告を日本語で、今後の展望等を英語で論文発表された。大学生、高校生がリハ工学カンファレンス活動をじかに見聞する機会を持ったことは年代を超えた情報共有であり、意義があった。

8. シンポジウム/ラウンドテーブルディスカッション

シンポジウムは「福祉機器・用具と支援技術によるQOLの向上」について、ラウンドテーブルは「誰もが納得する福祉機器・用具のコーディネートとは？」についてであった。

9. 論文発表

日本語論文は131編、英語論文は24編(内外国人は15編)であった。

10. まとめ

「バリア・フリーの学会をやるのに日本ではバリアのある学会をやっている」ということの打破を少しは達成出来たと考えている。しかしQOL向上へ向け、今後続けて行くことが課題である。チラシにあるように、発表論文から選んでWorld wide distributionの本にしてIOS Pressより発行することを進めている⁴⁾。

謝辞

本カンファレンスへの参加者、外国から参加してくださいました21名の方々、出展企業各位、リハビリテーション工学協会の松尾清美理事長(佐賀大学)、糟谷佐紀理事(神戸学院大学)をはじめとする理事各位、東江由起夫副実行委員長(新潟医療福祉大学)をはじめとする実行委員ならびに当日ボランティアとして参加した学生各位に感謝致します。また、空飛ぶ車いす修理技術国際交流会開催にあたりボランティアとして参加した学生・生徒は勿論、役員、来賓各位、新潟工業高校矢沢 明先生、(財)日本社会福祉弘済会佐々木俊一様に感謝いたします。なお高橋栄明大会長を通して新潟医療福祉大学からは予算の上でもご協力を頂いたことを報告致します。

参考文献

- 1) 第23回リハ工学カンファレンス in 新潟、講演論文集、2008
- 2) 第23回リハ工学カンファレンス ホームページ
<http://shinsen.biz/23rihakou/>
- 3) 新潟日報、2008年9月9日
- 4) チラシ JCAART Proceedings 2008 及び
IOS Press, <http://www.iospress.com/>